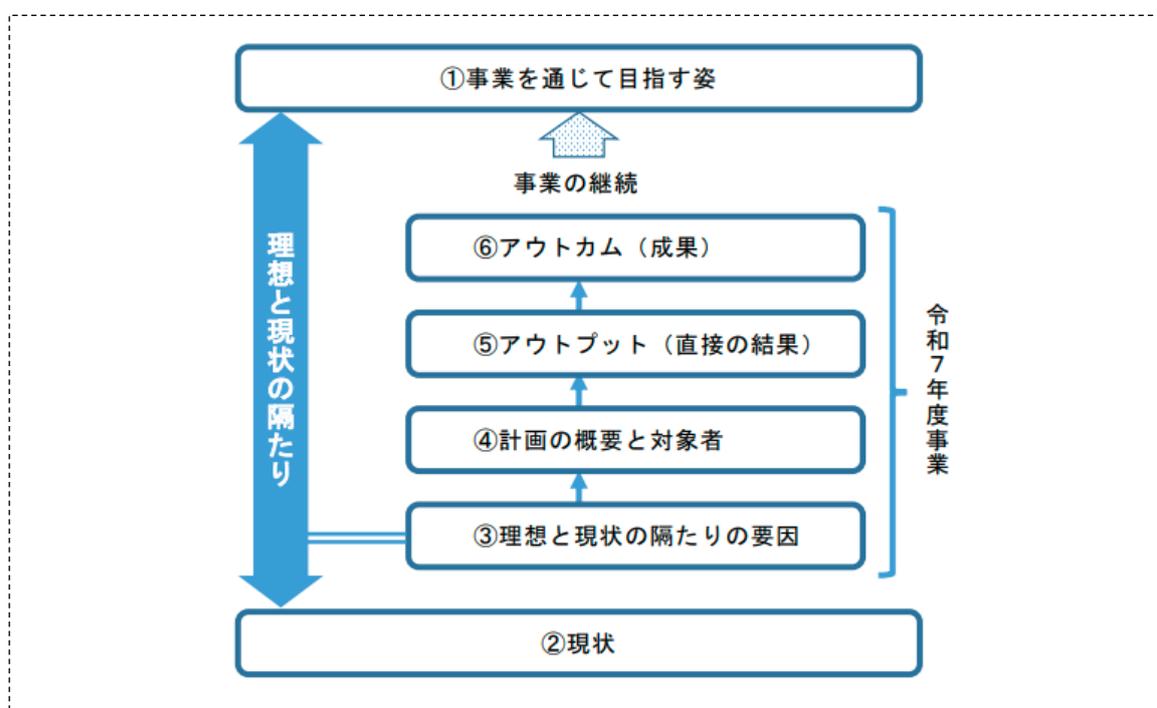


事業計画書

事業名	身近なマイクロプラスチックを調べよう
団体名	公益財団法人 水島地域環境再生財団

◆ 記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

瀬戸内海をはじめとする、世界中の海で「海ごみ・プラスチックごみ」が大きな問題となっている。これらのごみの約8割は、陸域で発生したものとされており、回収や発生抑制を目的とした様々な取り組みが進められているが、削減にはつながっていないのが現状である。特にプラスチックごみは、劣化等によりマイクロプラスチック化することで将来的に生態系に悪影響を及ぼすことが懸念されている。

プラスチック製品をはじめとする大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会のあり方を見直し、循環型社会への転換を目指したい。

2 現状

上記1の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

毎年、倉敷市内の沿岸部をはじめとして、河川流域等で清掃活動が行われているが、1年も経つと元の状態に戻ることを繰り返しており、ごみの自然界への流入が続いている。

コロナ禍により使い捨てマスクやテイクアウト容器が増えるなど、使い捨て製品がむしろ増えており、それに伴って発生するごみの量も増えていると考えられる。

陸ごみと海ごみのつながりや、それらがやがてマイクロプラスチックとなることを意識することがなく、まちなかに散乱するごみについても、気づかないか、意識せずそのまま放置されている。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記1と2の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

使い捨て製品の方が、便利で楽で、衛生的という価値観が支配的であり、物を大切に使う、繰り返して使うといった考え方が軽んじられている。

身近な使い捨て製品が、環境中に散乱し、放置されることでやがてマイクロプラスチックとなることに気づいていない人が多く、危機感を持った意識の変化につながっていない。

4 計画の概要と対象者（令和7年度）

上記3で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記7に記入してください）。

倉敷市民・団体に対し、「広報くらしき」に2024年度に倉敷市が作成する「マイクロプラスチック（以下,MP）ごみ調査法」を活用したMP調査の呼びかけを掲載すると同時に、市内図書館・公民館等に啓発用リーフレットを配布することで、市民への啓発と、MPの実態把握・データの収集を行う。

◆ **アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について**

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、〇〇〇というアウトプットが生じ、次にその成果として、△△というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施→アウトプット→アウトカム

◆ **アウトプットとアウトカムの例**

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月4回、各回20名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1千冊作成、800人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週2回、各回15名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週2回、各回5名利用	移動手段の選択肢の増加

5 **アウトプット（直接の結果）**

令和7年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。

- ・ 倉敷市内の全市民・団体に対して、MPの実態を啓発し、調査を呼びかける。
- ・ 海ごみとMPのつながり、その調査手法や対策等を啓発するリーフレットを5,000部作成し、市内公民館・図書館等に配布するとともに、出前講座等の資料として活用する。
- ・ 希望する小中学校・市民団体等には、みずしま財団が講師としてMPに関するレクチャーを行う（調査方法の説明含む）。

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
・ MPに関する情報を目にした人の数	0件	倉敷市内全市民（約22万世帯）
・ MPに関するレクチャーの受講者・団体数	0団体	5団体
・ 市内MPの測定データ	0地点	20地点

(様式第2号)

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

- ・ 「広報くらしき」の配布数
- ・ MPに関するレクチャーの受講者数
- ・ MPごみ調査参加者数

6 アウトカム（成果）

上記5のアウトプットが、令和7年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

- ・ MPの発生とその影響の可能性、自分たちの暮らしとのつながりを実感することで、ごみの減量化、流出防止への取り組みに対する意識の醸成につながる、
- ・ MPごみの分布が把握されることで、対策の立案につながる。

7 計画の詳細

(1) 具体的な内容

※内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらいなど、できるだけ明確に記入してください。

MPごみに関する啓発及び、調査の呼びかけ

2024年度に作成するMPごみ調査マニュアルを活用した、MPごみと海ごみ及び私たちの暮らしとのつながりを啓発するリーフレットを5,000部作成し、市内公民館・図書館等に配布する。同時に、調査マニュアルを活用した定点観測の呼びかけを「広報くらしき」に掲載し、倉敷市内の市民及び団体による実施を促す。希望者には、MPごみ調査の手法の説明などを盛り込んだMPに関するレクチャーを、みずしま財団職員が有償で実施し、啓発を行うとともにデータを集約する。

「広報くらしき」への掲載は、2025年8月号を目指す。

MPに関するレクチャーは、5件程度の実施を目指す。

MPごみ調査のデータとしては、20件程度の回収を目指す。調査結果は、取りまとめて、みずしま財団のHP上で公表する。

実施期間：2025年6月～12月

(2) スケジュール（準備～実施～報告）

2025年	
4～7月	「MPごみ調査」に関するリーフレットの作成・印刷
6月	「広報くらしき」へのMPごみ調査への参加協力の呼びかけ記事の入稿
8月	「広報くらしき」8月号への記事の掲載 →調査への参加呼びかけ
8月～12月	MPごみ調査の集計 →必要に応じて、有償でのMPに関するレクチャーの実施
2026年	
3月	報告書の作成・提出

(様式第2号)

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
福田 憲一	MP ごみ調査の経験あり 海ごみ問題をテーマにしたレクチャー講師の経験あり	
塩飽 敏史	MP ごみ調査の経験あり 海ごみ問題をテーマにしたレクチャー講師の経験あり	有
藤原 園子	海ごみ・川ごみ調査の経験あり	
藤田 由起子	会計・経理	有
横尾 礼華	アンケート集計・データ入力	有
上山 佳奈子	アンケート集計・データ入力	有
10名を超える場合は、外〇〇名としてください⇒		外()名

8 受益者負担 ※事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する(見込み: MPに関するレクチャーの講師料)

(2) 徴収しない(理由: _____)